

「インクルーシブな学校運営モデル事業」カリ・マネ便り⑭

カリキュラム・マネージャー

「オンライン共同学習」実施

2月25日（火）9：00、更農の学校設定教科・科目「カルチベーション」で「オンライン共同学習」を実施し、中高養の3名の生徒が参加しました。この3名は「交流及び共同学習」実施要項により選ばれた生徒です。

主題 「岡田家の日曜日」

葛藤場面

「明日は月曜日だが学校行事の振替で休日。久しぶりにゆっくり起きることができると思っていた岡田さんですが、妻から『明日は休みなんだから、朝食つくってよ！』、さて…。」

展開の太要（①～③はグループで意見交換）

- ①岡田さんの立場ならどう感じる？妻にどう伝える？
- ②妻の立場になるとどうだろう。どんなつもり？どうしてそう言ったのだろう？
- ③岡田さんも妻も気持ちよく明日の朝を迎えるにはどうしたらよいだろうか？
- ④グループで交流した解決方法を発表する。

発表（解決方法の一例）

- 🌟 カレーの作りおきをする。（更農）
- 🌟 とりあえず寝る。（更農）
- 🌟 ふたりで朝食をつくる。（更農、中高養）
- 🌟 つくりおきや弁当を買う。（更農、中高養）
- 🌟 「後のことはやっておくから、先に休んで」と言う。（中高養）

感想（オンライン授業に関する記述）

- 🌟 普段とは違う授業で新鮮だった。
- 🌟 中高養さん優しい回答でよかった。自分もそうしたい。
- 🌟 はじめてのオンラインでとても楽しかった。
- 🌟 交流授業ということで緊張したけど、しっかり考えをまとめることができた。
- 🌟 他の学校との関わりもあり、楽しかった。
- 🌟 中高養ともっと交流してもよいと思いました。（以上、更農）
- 🌟 よかった。
- 🌟 自分の立場と相手の立場を考えられる良い授業だったと思います。
- 🌟 とても楽しかったけど、相手の生徒の顔や声が聞こえるようにしたい。生徒側、先生側が見えるようにしてもらいたい。（以上、中高養）



中高養の生徒が発表した時の様子。この後、拍手が起こりました。

「第3回連携協議会」開催

2月21日（金）、第3回連携協議会が開催され、B地区の「成果や課題」を共有しました。

〔主な意見〕

- 先生方にインクルーシブ教育の実践者としての当事者意識をもってもらうため、「生徒の変容」を発信し共有できるように努めることが重要である。
- 「オンライン共同学習」は良い取組、全国モデルとなる。そのためにも「目指している生徒の姿やつぶやき」を明らかにしておきたい。
- 様々な困難がある中で頑張っていることが分かった。良い方向に進んでいると思う。
- 継続性のある学校間交流は多くない。両校の「交流学习」は継続的に実施されている点が貴重である。目標に対する評価をしっかりと行い充実させてほしい。
- 授業アンケートは生徒の本音を引き出すもの。生徒が実感していることを把握することが大事である。
- 年度当初から見れば、多くの先生方が関わって進められていると感じている。ボトムアップで少しずつ取り組んできた成果である。
- 全員参加ではなく教育的ニーズに応じた「交流及び共同学習」という視点の取組は全国に発信できる内容である。



● 更農から数学教材の提供

更農の教科・科目「カルチベーション」で継続的に使用している教材（数学）の提供がありました。（中高養からの要望）

教材は「たし算」「かけ算」「たし&ひき算」「かけ&わり算」「四則」「カード推理」「ブロック1」「ブロック2」からなり、「たし算」編だけでもno1 からno14 まであります。それぞれのナンバーには3つの問題が掲載され、一度ルールを覚えると、パズルのような感覚で気軽に取り組むことができるようになっています。

同様の取組は数学科でも授業の導入で行われ、生徒同士で教え合ったりする姿が見られています。

指定数字	1	2	3	5
2	4+	2-		
8+		3+		
	7+		4-	
1-		3		

① 図のマスに指定された数字を1つずつ入れる。				
② どの列（たて、横とも）にも指定された数字が1つずつ入る。				
③ 数字と記号は、太線で囲まれたブロック内の数の和（たしたもの）、差（ひいたもの）を表す。				
④ ブロック内の数が1つのときはその数字が入る				

※この便りは更農、中高養の教職員の方々に向けて作成しています。